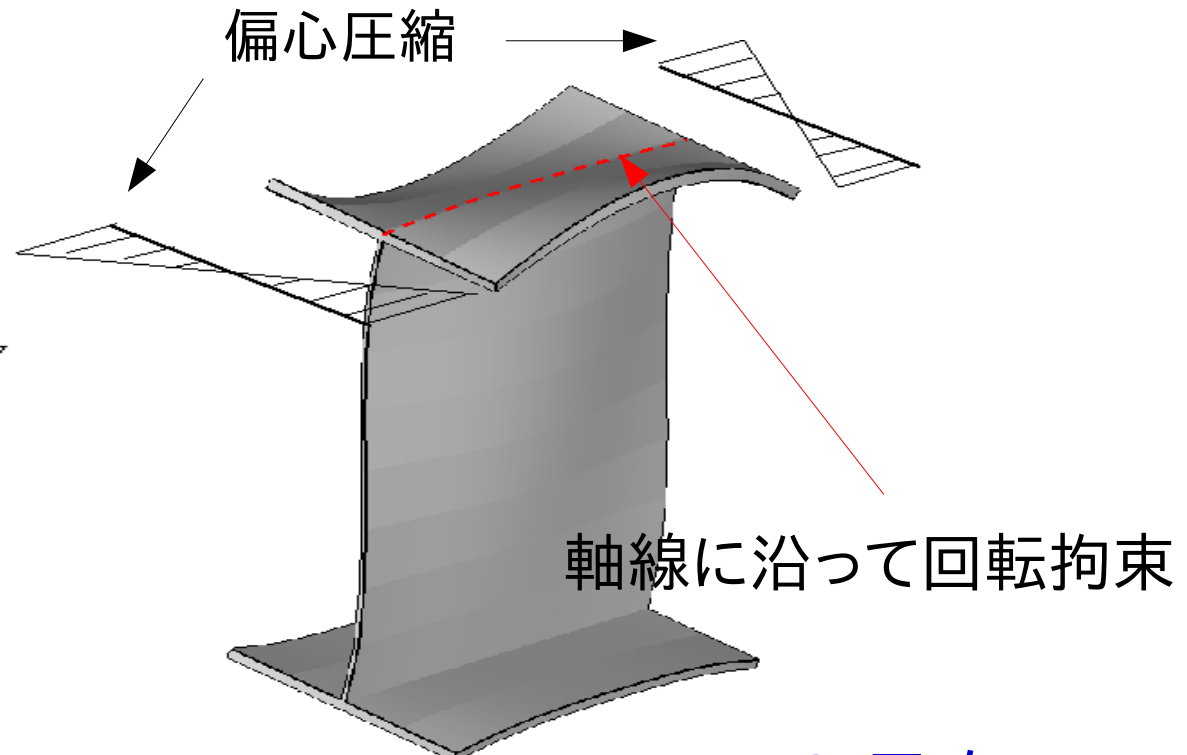
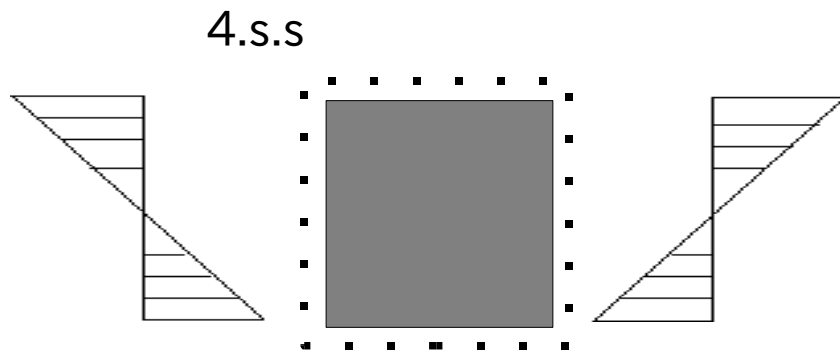


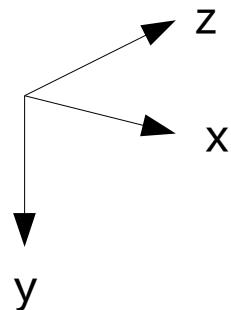
# 偏心载荷を受ける I型梁圧縮フランジの座屈

環境構造工学講座  
04477 山崎 由紀子

はじめに



# 境界条件



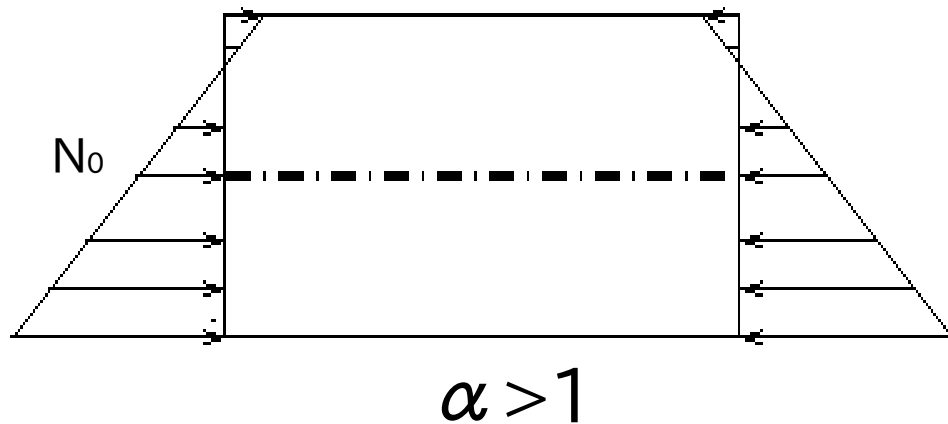
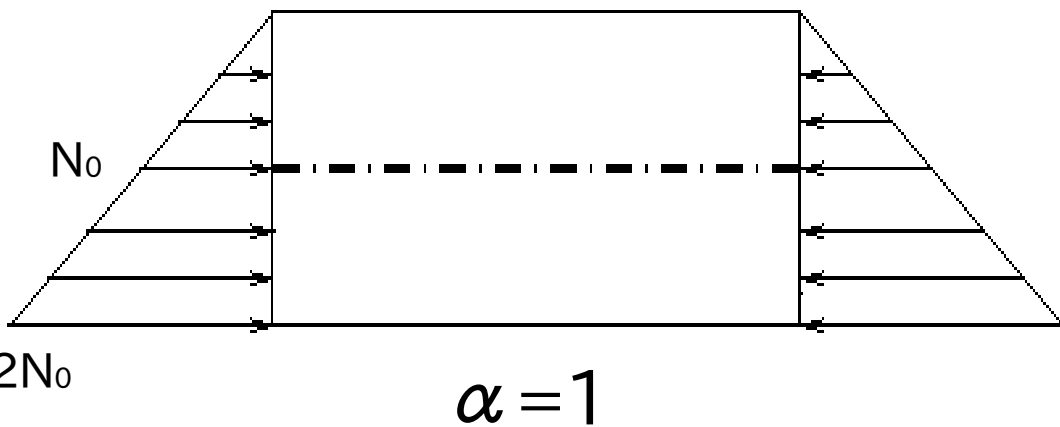
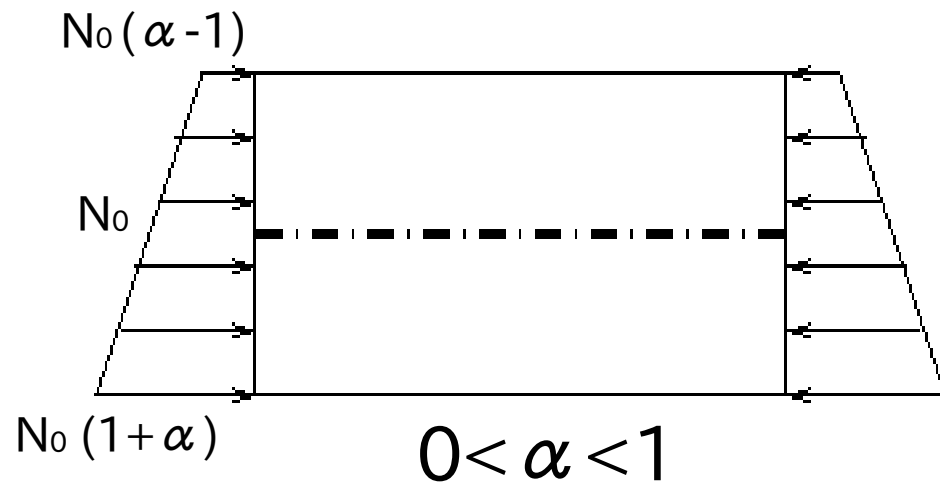
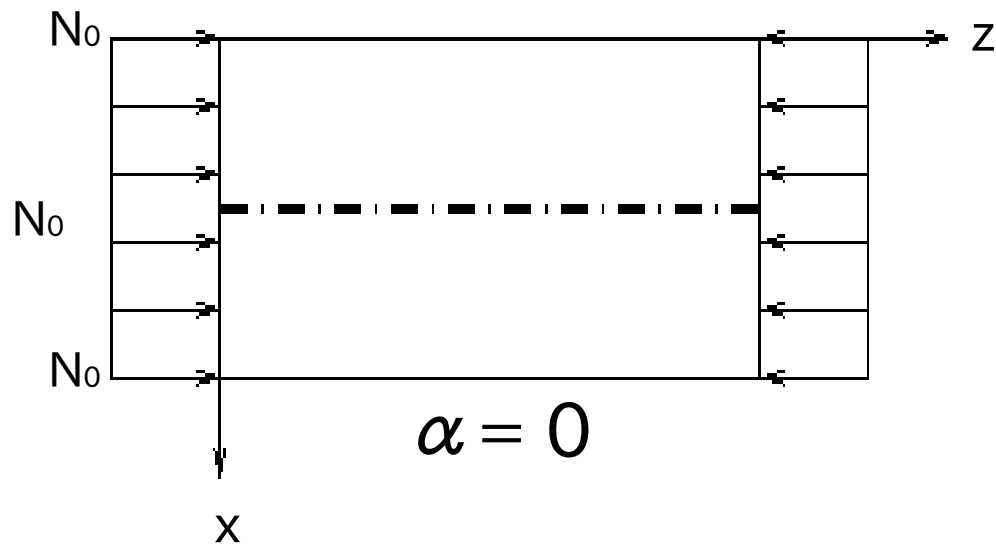
両端を単純支持  
(上下に動かない)

両端固定

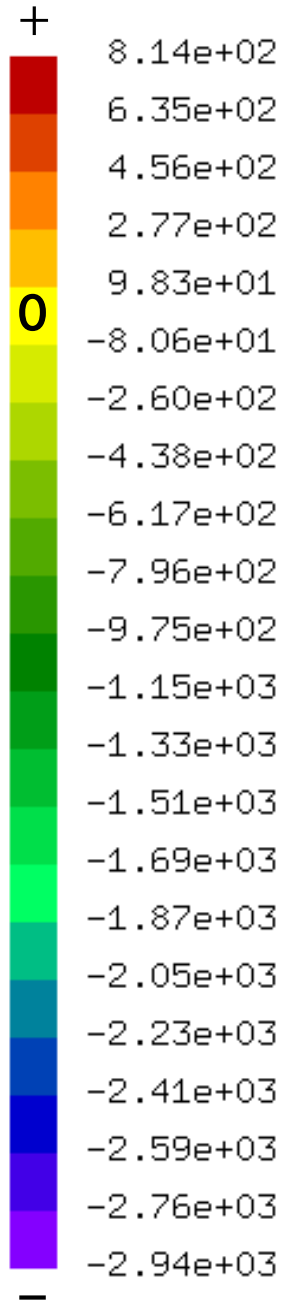
解析ツール  
CalculiX

# 載荷方法

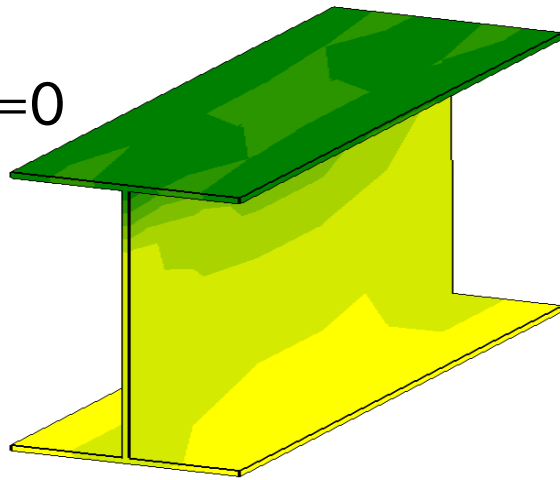
$N_0$  : 軸力  
 $\alpha$  : 偏心率



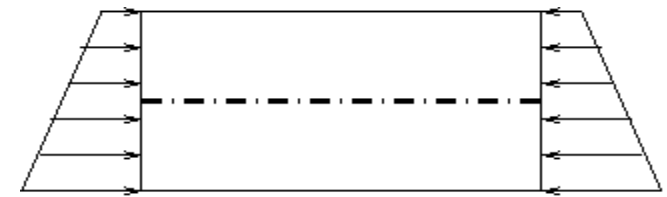
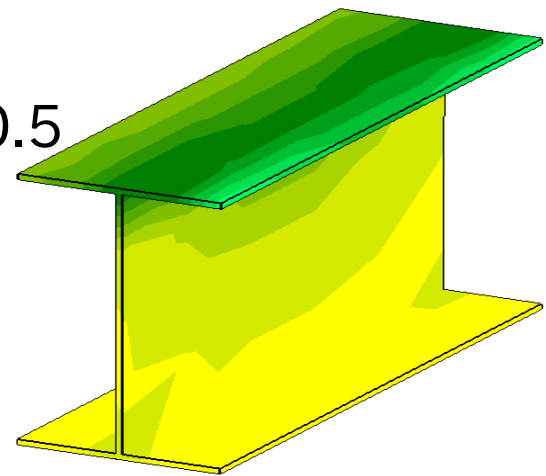
# 軸方向応力



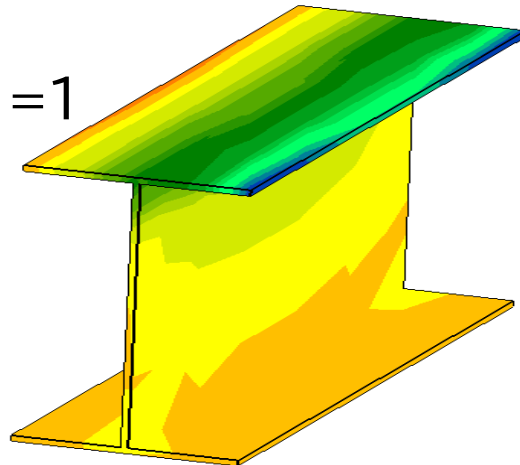
$\alpha = 0$



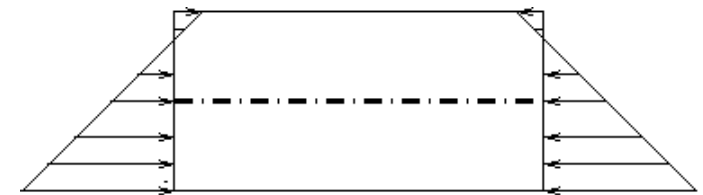
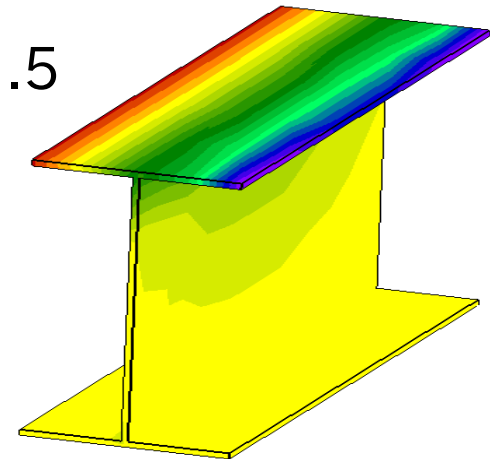
$\alpha = 0.5$



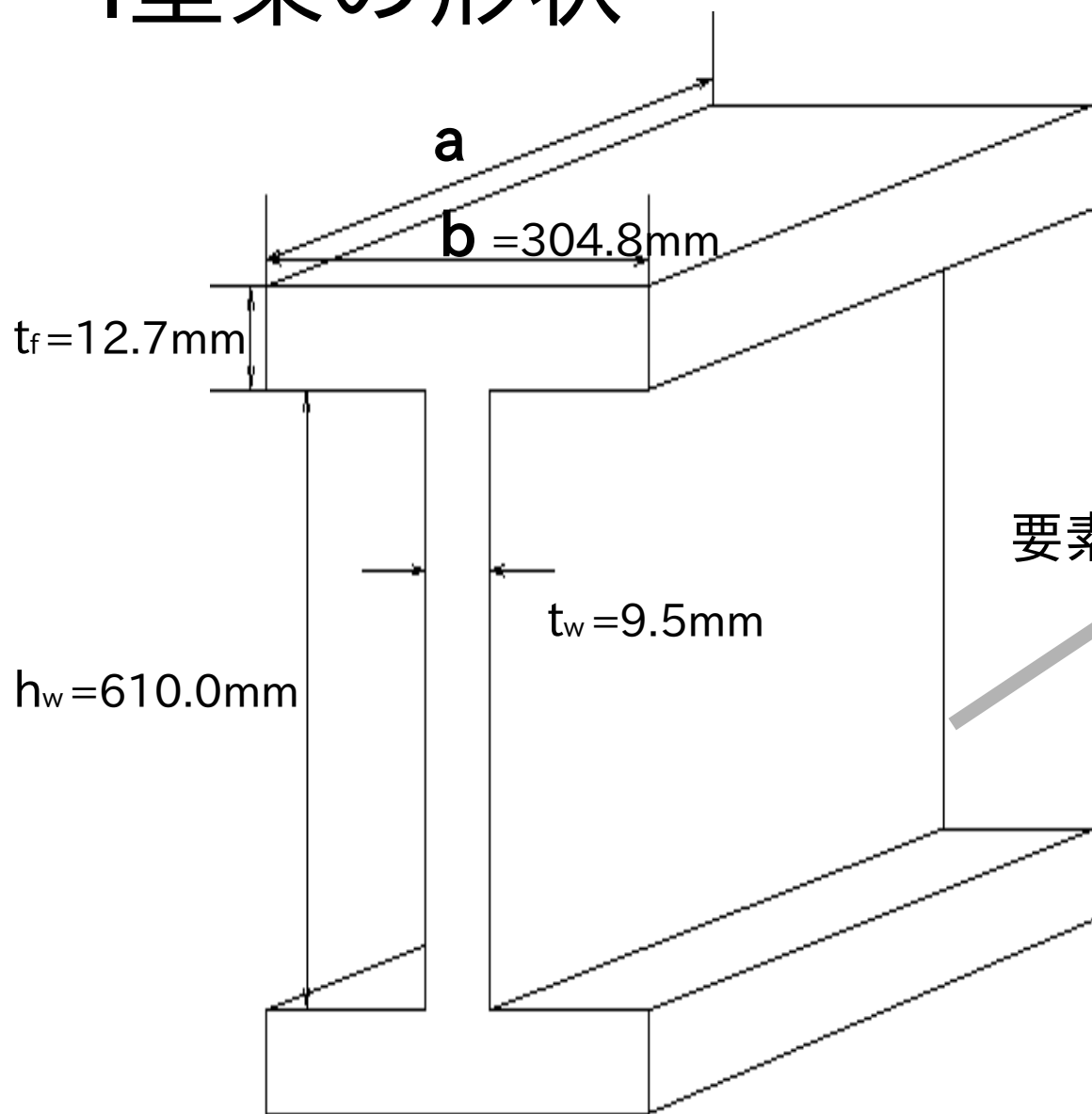
$\alpha = 1$



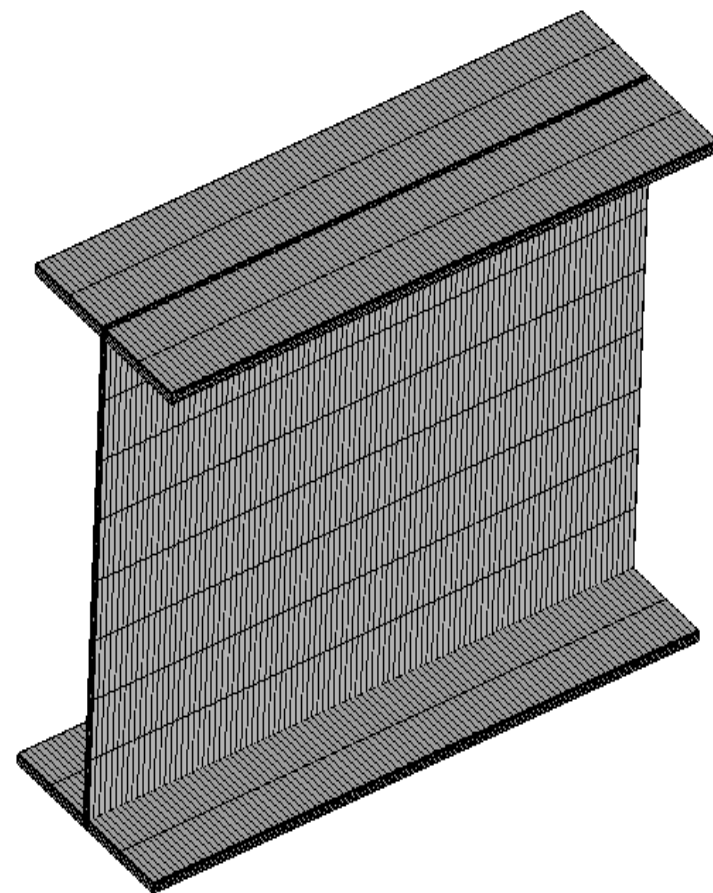
$\alpha = 1.5$



# I型梁の形状



要素分割

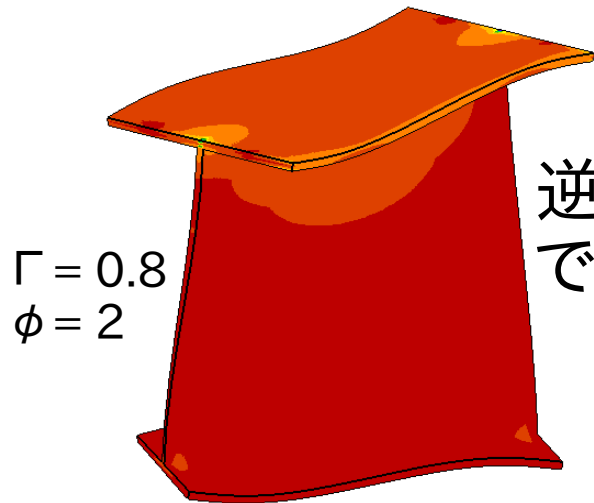


$$\text{アスペクト比} : \phi = \frac{a}{b}$$

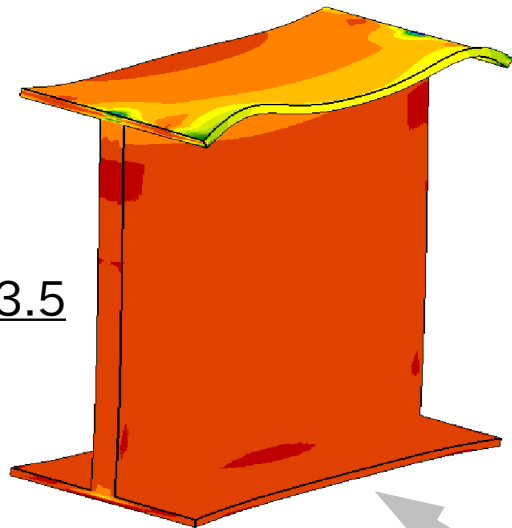
$$\text{回転剛性} : \Gamma = \frac{4b}{h_w} \left( \frac{t_w}{t_f} \right)^3$$

この梁の場合、  
 $\Gamma = 0.8$   $\left( \begin{array}{l} t_w \times 4 \text{ のとき } \Gamma = 53.5 \\ t_w / 3 \text{ のとき } \Gamma = 0.03 \end{array} \right)$

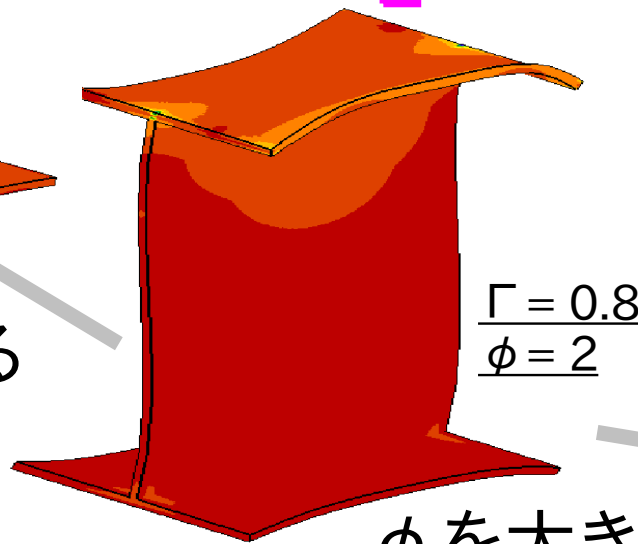
最小固有値における座屈荷重



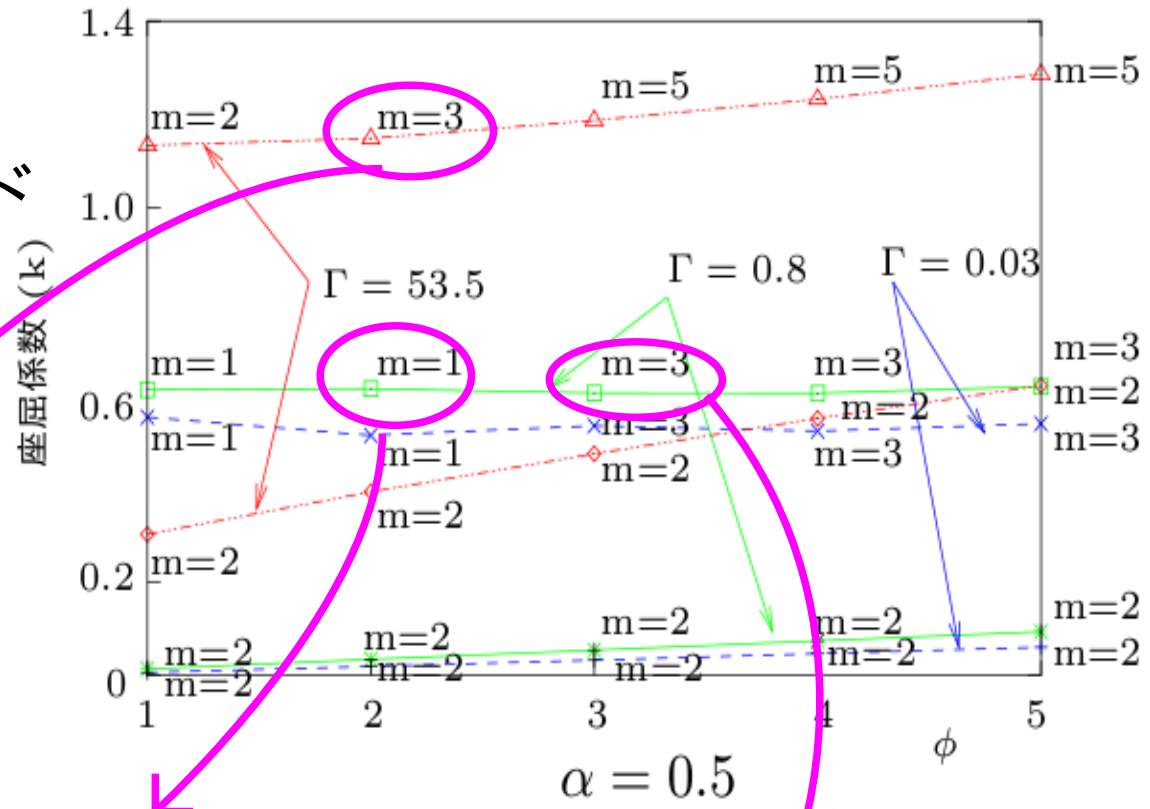
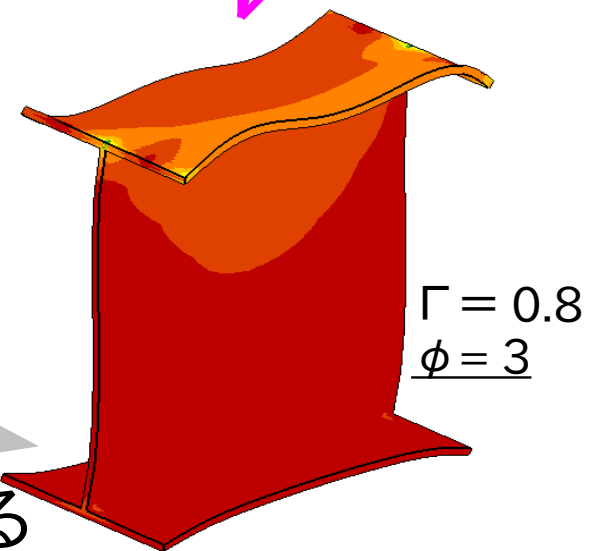
逆対称モード  
で座屈



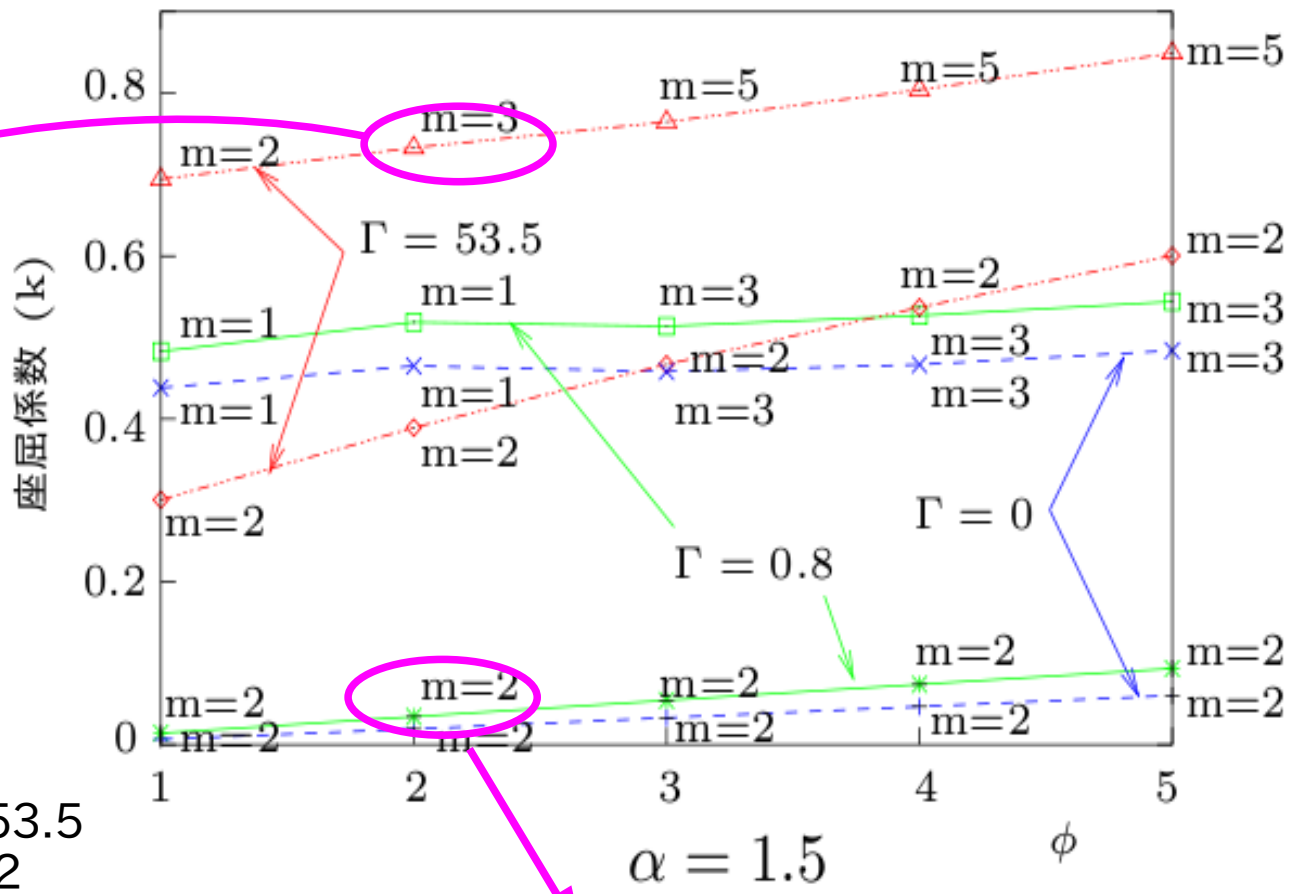
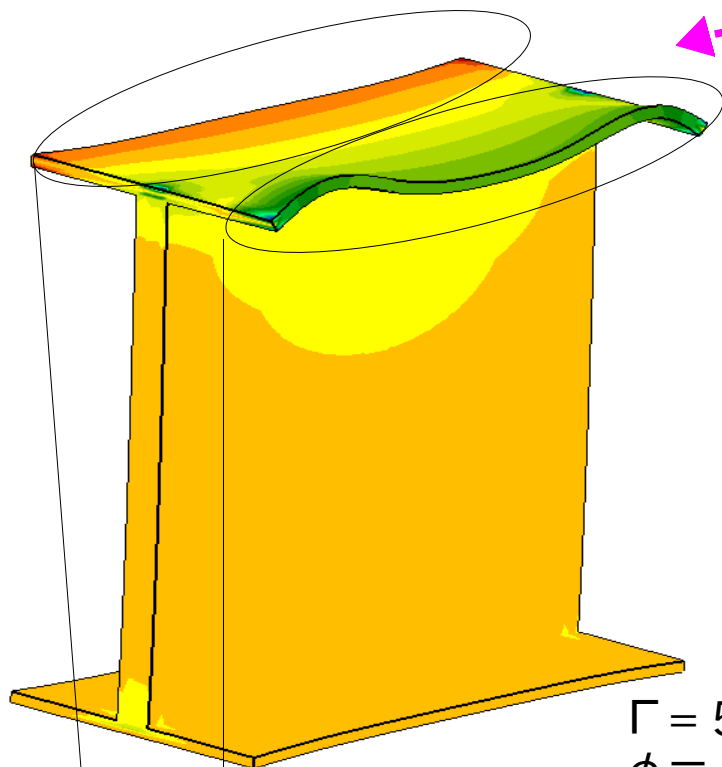
$\Gamma$  を大きくする



$\phi$  を大きくする

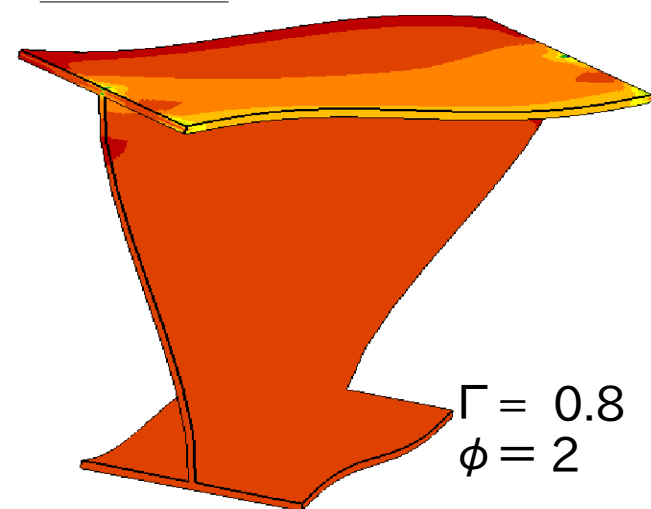


2番目に小さい座屈荷重



$\Gamma = 53.5$   
 $\phi = 2$

$\alpha = 1.5$



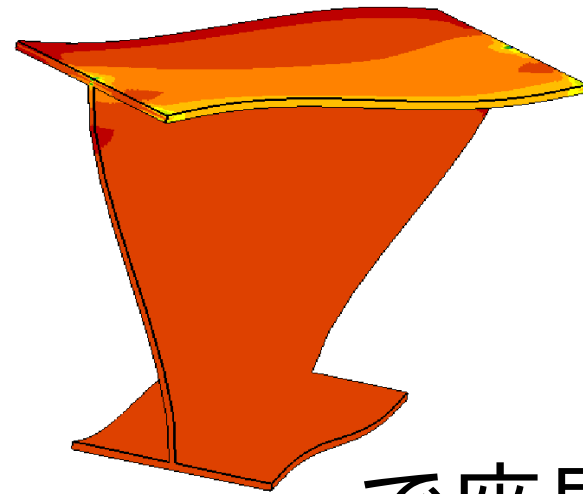
$\Gamma = 0.8$   
 $\phi = 2$

圧縮側では座屈は起こるが  
引張側では座屈が起きていない

# まとめ

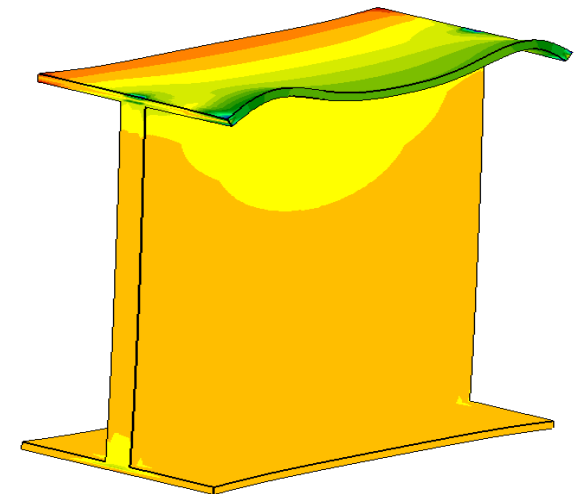
最小固有値に対応する座屈荷重

$\Gamma, \alpha, \phi$  によらず {  $m=2$   
逆対称モード } で座屈する



$\Gamma \rightarrow \text{大}, \alpha > 1$

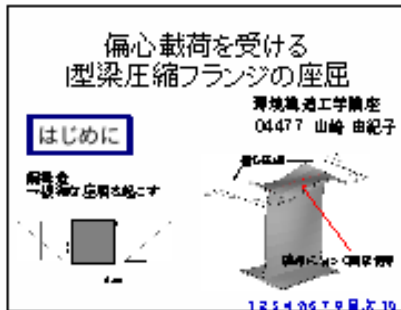
圧縮側では座屈が起こるが  
引張側では座屈は起こらない



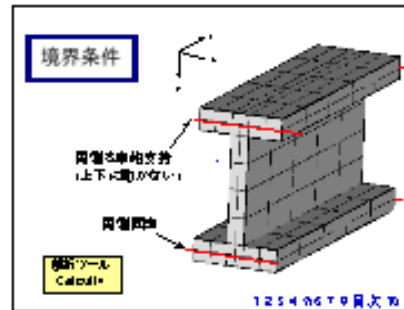


# 目次

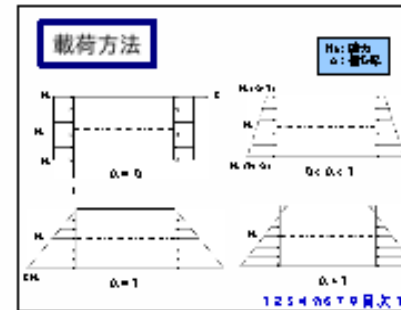
## 1.はじめに



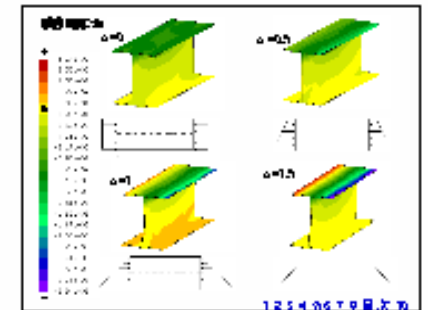
## 2.境界条件



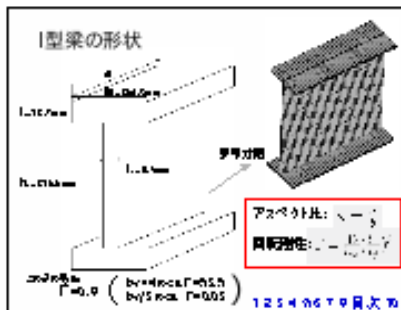
## 3.載荷方法



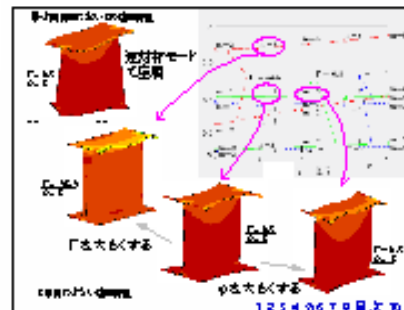
## 4.軸方向応力



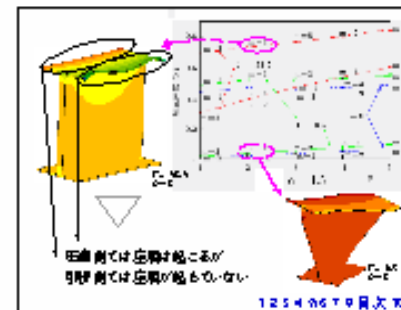
## 5.梁の形状



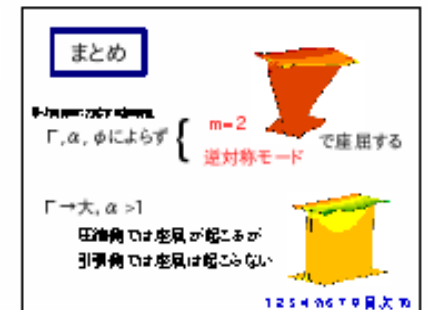
## 6.解析1



## 7.解析2



## 8.まとめ



## 各節点に載荷される荷重

$$N = \frac{\left(\frac{2\alpha}{b}x + 1 - \alpha\right)N_0}{n_{fy} + 1}$$

フランジ全断面に作用する合応力としての軸力

フランジ幅方向の要素分割

## 座屈係数 : k

$$\sigma = \frac{\pi^2 E}{12(1-\nu^2)} \left(\frac{t_f}{b}\right)^2$$

ヤング率

ポアソン比

$$k = \frac{P_{cr}}{\sigma b t_f}$$

座屈荷重

